

会 議 録

会議の名称	平成20年度 第3回環境審議会
開催日時	平成20年7月11日(金曜) 14時00分から16時00分まで
開催場所	田無庁舎3階 庁議室
出席者	【委員】野田委員、伊藤委員、北村委員、筒井委員、吉村委員、齋藤委員、堤委員、小川委員、前島委員 【事務局】 齊藤生活環境部長、大和田環境保全課長、三城環境計画係長、西野環境計画係主査、佐藤環境計画係主事
議 題	1 開会 2 委嘱式 委員自己紹介及び職員紹介 3 会長・副会長の選出 4 西東京市の概要 5 (仮称)西東京市地球温暖化対策地域推進計画策定の概要 6 温室効果ガス排出量算定の中間報告 7 その他 8 閉会
会議資料の名称	【当日配布資料】 【資料1】西東京市環境審議会委員・事務局職員名簿 【資料2】西東京市環境審議会の運営について 【資料3】「西東京市地球温暖化対策地域推進計画の策定における基本的な考え方の諮問について(写し)」 【資料4】西東京市の概要 【資料5】(仮称)西東京市地球温暖化対策地域推進計画策定事業について 【資料6】温室効果ガス排出の算定について(中間報告)
記録方法	全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>(14時00分 開会)</p> <p>1.開会 市長より挨拶</p> <p>2.委嘱式 委嘱状の伝達</p> <p>3.会長・副会長の選出 野田委員を会長に、伊藤委員を副会長に選出</p> <p>4.西東京市の概要 事務局より【資料4】の説明</p>	

5. (仮称)西東京市地球温暖化対策地域推進計画策定の概要

事務局より【資料5】の説明

6. 温室効果ガス排出量算定の中間報告

事務局より【資料6】の説明

堤委員

【資料5】の2ページの温室効果ガス排出量算定の条件で、廃棄物部門は一般廃棄物のみとなっているのはなぜか。

事務局

西東京市には最終処分場がないため、このように表記しています。

堤委員

排出段階では計算されていないということでしょうか。

事務局

はい。焼却段階で計算しています。

堤委員

【資料6】の1ページの7行目に、「本資料では、温室効果ガス排出量の大部分を占める二酸化炭素のうち、廃棄物からの排出量を除いたもの」とあるが、ガイドラインで示されていないからなのか、廃棄物からのCO₂排出量の把握ができない等の理由によるものなのか。

事務局

今回提示した資料には廃棄物に関する値が載っていないという意味であり、最終的には排出量の算定を行います。

伊藤副会長

すでに地域推進計画を出している地方自治体もあると思うが、それらのデータを今後資料として提出していただくことは可能か。例えば、小平市などの近隣市などの資料を提出いただけるか。

事務局

多摩地方において地域推進計画を策定している自治体は多くないが、近隣市や地域推進計画を策定している自治体等のデータを参考資料として提出していきます。

吉村委員

【資料5】の1ページ、策定の目的について、「地球が温暖化している、それは良くないことである その原因はCO₂の増加にある そのために排出を削減する」が前提となっていて、その流れは今や常識になっているが、そうではないという考え方もあると思

う。
温暖化に対する多様な考え方についても議論を行う場合、そういった資料は用意していただけるか。

事務局

議題等に沿った形で資料提供をしていく。また逆に、委員の方からの資料提供も受け付け、皆様で議論していただくという審議会運営にしたいと思います。

堤委員

【資料5】の1ページ目のCO₂の2の字が大きい。資料全体に渡って見受けられるので、確認をお願いしたい。

事務局

事務局で確認して、訂正します。

北村委員

合併以降、西東京市に住みたいという人が多い。人口が急激に増えているが、都市開発の部門などに関連し、議論していかなければいけないのではないかと。

例えば、IHI（旧石川島播磨重工）の跡地に病院が建設される、農地が宅地化されていく、大規模な集合住宅の増加など、様々なことを含めて検討していくべきだと思う。

野田会長

【資料6】の1ページの最後の部分で、「排出量の値については、今後修正される可能性があります」とあるが具体的にどういう意味か。

事務局

今回は環境省が定めたガイドラインに沿って算定しているが、現在、東京都市長会で、区域内での温室効果ガスの排出量を算定するソフトを作成中であり、今年度末に出来上がるため、最終的にはこちらを使用したいと考えています。

区長会では、すでに作成済みであり使用しています。近隣市との状況を比較、検討する上で、そちらを使用した方がよいと市では考えているため、ソフトが出来次第、計算をし直し、皆様へ提示をします。

環境省のガイドラインと算定ソフトでは数値の違いが若干は出てくると思いますが、傾向は同じような形になると考えています。審議会については本日よりスタートしており、審議内容としては、排出量数値に対しどのように取り組めば削減効果があるかということのポイントとさせていただきたい。

筒井委員

環境審議会の委員として参加しているが、従来、環境問題について、西東京市でどのような経緯を経ているのか。

審議会での検討内容、報告資料などの資料をいただくとよい。また、削減目標に関し

ては国の目標があるが、西東京市での現状から、最終的に市独自の目標を作ることとなるのか。

事務局

審議会の経緯については、次回資料提供を行います。

合併後、審議会は今回が第4期であり、諮問答申内容は、第1期が環境基本計画の策定、第2期は環境学習の関係、第3期は環境基本計画の見直しでした。

筒井委員

過去の審議内容があれば、問題点、課題などを時系列的に過去の推移から考えていけるのではないかと。今回の審議会に生かしていけば効率的なものになると思う。

また、【資料6】の2ページの(1)のグラフについて、2001年まで横ばい、2002年からは増加、2003年からまた横ばいしないし減少となっているが、理由は何か。

市民へ呼びかけた努力の結果であるとか、市民の意識によるものなのか。

事務局

原因の限定はできないが、西東京市全体におけることであるので、人口増加や、開発によるものかと考えています。

筒井委員

人口が増加する中でも、努力による効果があったとは考えられないか。

事務局

トレンドの詳細な分析を行ってはいないが、傾向がトレンドと合ったのではないかと思います。

筒井委員

西東京市と同様の人口構成、産業構成の他の市に比べてどれくらい排出しているのか、などがわかれば市民の参考となると思う。企業においても、家庭においても、意識しながら少しずつでも努力することによって、結果が出るのではないかと。

北村委員

ごみが有料化になったため工夫をするなど、実感を伴うとできないことはない。それをどう行うかが重要である。

筒井委員

マンションに住んでいるが、ごみが有料化になって、住民はシビアだと感じた。今後、孫の世代の問題となっていくことを意識して今取り組まなければいけないと思う。

北村委員

環境問題について審議するだけでなく、ごみの問題からもわかることがあり、市民の人

たちにもっと分かってもらいたい。

また、国の目標とは別に、国が西東京市を真似したくなるような優良事例を作りたい。そのためには不可能な目標設定は無理であり、高めであるけれども可能な目標を設定し、到達するための楽しい方法などを審議していきたいと思う。

筒井委員

物事をやるときに結果が見えることが重要だと思う。

北村委員

西東京市においては、民生家庭部門からの排出が43.8%と多いが、そこから取り組んでいけたらよい。

伊藤副会長

ごみ問題ひとつをとっても、処理まで考えると西東京市にとどまる話ではない。まず西東京市として排出量削減をはじめとする環境問題に取り組むことが重要だが、それと同時に周辺自治体も含めた視点で検討することも忘れてはならない。

北村委員

現在のみどりをどう保存、維持していくか、ということも必要ではないか。今ある家庭の中で庭木を育てていく、といったことも必要ではないか。

筒井委員

西東京市は緑が多く、非常によいと思う。

食糧問題でいうと、諸外国では何も食べられないような子供もいる。アメリカ・ブラジルなどでバイオエタノールが生成されているが、食糧とするか燃料とするかのどちらかであれば、食糧とするべきではないか。

この審議会において議論していく中で、地球規模での背景、環境への影響や、日本、西東京市での背景が見えると、全体がはっきりとわかってくるのではないか。

吉村委員

環境は全てに関係しているので、西東京市だけ見ても十分に捉えられないと思う。また環境を考えるとということは、この街の将来像に何を残していくのかを考えることでもある。

また、【資料6】の2ページ、CO₂排出量の推移に関連して、西東京市または近辺の気温の変化について、資料を出していただけるか。

事務局

次回以降、提出します。

小川委員

【資料6】について、排出量が2002年以降上がっているのは、排出係数の変化のためで

はないか。排出係数は、東京電力が電気を作る時にどれくらい燃料を使用したかというのを示したものである。

2002年、2003年は原発が停止し、火力発電による排出係数が上昇した。排出係数が変わることによって、排出量が増加したように見えてしまうことがある。

東京都においても2002年以降は20%～30%の増加となっており、余計なエネルギーを使用していないのに、CO₂の排出だけ多く見えてしまっている。

そのため、排出量について議論する際には、純粹にどれだけのCO₂が排出されたかということも議論するのか、排出係数の変化を含めた分も換算して議論するのかということも認識しておく必要がある。

東京都の場合は、2001年の係数をそのまま使用した、ベースをそろえて計算した数値と、実際の排出量の数値の両方を提示している。

堤委員

その場合は、グラフを2つ併記するのか。

小川委員

定義を明記すればよい。参加者が分かっている状態で議論できればよいと思うので、作成した資料に、排出量の算出根拠の定義を提示できるとよい。

北村委員

今回はこのグラフを使用して議論する、ということが明確になればよい。

小川委員

東京都の資料では、2002年以降、注釈付きで両方の数値を出している。どちらかといつても聞かれるが、全体で比較したい場合は、排出係数が変化したもので考えてほしいと伝えている。

堤委員

排出量が増加した理由が原発停止によるものだと限定すると、パーセンテージが低い他の理由を見逃すことにならないか。

小川委員

2001年度は0.317という排出係数であった。2003年には0.461という数値となっている。この数値の変化により、実際の使用量はほとんど変わらないが、排出係数により排出量が多くなってしまう。

東京都は原子力発電所の長期停止に伴う係数の悪化を考慮するために、2001年の係数を使用していますと明記している。

伊藤副会長

電力については、発電所で使用時の一次エネルギーに比べ、発電及び送電損失を考慮した二次エネルギーは約3分の1になる。

地球規模の環境を考慮するなら一次、個別の家庭の使用量を検討するなら二次といった具合に各々の前提条件に適した数値を使用することが重要だ。

齋藤委員

排出係数が毎年変わることにより自分たちの努力が見えにくいため、係数は一定の値を使うことで努力を見てもらい、判断してもらうようにしている。

筒井委員

努力した結果が見えるとよい。

齋藤委員

算定の際のデータだが、既存のデータとは何を用いているか。都や国が公表しているデータと同様のものを使用しているか。

事務局

家庭でいえば世帯数や人口など、国が調査、公表している値、電気であれば東京電力が公表している電気・電灯の使用量などを使用しています。西東京市の統計書などのデータをピックアップし計算に用いています。

小川委員

市町村でCO₂排出量を算定するにあたっては、東京都で使っているデータを分解して、振り分けるといった形をとっている。

北村委員

分解とはどういう意味か。

小川委員

電気、ガスについて、東京都内で販売される量は東京電力、東京ガスからのデータで把握できる。自動車燃料の都内販売量は分からないため、都内走行量等を使って推計する。都内卸量は把握できるが、東京都に卸されたものは全国で使用するものも含まれるため、正確に把握できない。

家庭における灯油等については、消費統計からデータを用いて、世帯数による推計等を行っている。

堤委員

【資料6】で、環境省の自治体向けガイドでは、廃棄物収集運搬におけるCO₂排出量については、特にこの部分の削減対策に工夫を加え、低減させるということではなかった。

しかし、リサイクル品回収も含め、廃棄物等の収集運搬にかかるCO₂排出量は大きい。是非、データを活用して、運送頻度をこのように変えたら、あるいは混合収集をこの部分で取り込んだら、CO₂排出量がこのように変化するというシミュレーションを試みて、西東京市におけるリサイクル品回収や廃棄物収集運搬における、CO₂排出量削減の方

策がないものかを考えてみてほしい。

また、建設廃棄物の3Rに関して、2千~3千の現場の中で、5百現場くらいのゼロエミッションに関わった経験から、3Rをやると決心し、動き出したら、その先で失敗したという例がない。西東京市の施策において、3Rの考えを導入した場合、焼却に回る量が減るのか、CO₂排出量低減とコスト低減に繋がるのかどうか等、検討していただくとよい。わずかなデータも拾い、積み上げるということであれば、こういった点も含めると効果があるのではないか。

北村委員

家庭なり、町なり、それぞれが決心するところから変わってくるものである。

堤委員

決心すると違う。建設廃棄物の事例では、廃棄物が減る分、処理コストが低減する為、活動が前向きに確実に継続されていく。こういった視点も背景に、3Rの方向なども考えていただくと良い。

北村委員

環境とゴミというのは、産業部門とも関わりがあり、連動していくものである。

堤委員

1番の課題はCO₂であるが、その背景にある部分についての認識も重要である。

事務局

今後の日程については、月曜日の午前中が野田会長や奥委員など先生方が集まりやすいということで、基本的に月曜の午前中をお願いできればと考えています。

9月については、1日か8日か29日と考えていますが、夏休み明けということも考え、9月29日でよろしいですか。

全委員

< 異議なし >

事務局

日程については9月29日（月曜）で、時間については後日連絡します。

吉村委員

会場が次回からエコプラザであるが、遠いため何回か田無庁舎で行っていただくことは可能か。

事務局

エコプラザは環境啓発のための施設であるため、原則としてエコプラザでの開催をお願いします。田無庁舎からシャトルバスがあり、それをご利用してください。開始時間

についても、バスの時間などを考慮して設定します。庁議室は、庁議の意思決定の際に使用する等の目的があるため、エコプラザ利用をお願いします。

本日いただいた宿題等、次回までに準備し資料の提示を行います。

【資料2】の3ページ、第4条の会議録について、一般的には発言者の発言内容ごとの要点を記録したもので、よろしいですか。

筒井委員

西東京市ではこれまでどのようにしているのか。

事務局

概ね、発言者の発言内容ごとの要点記録で行っています。

筒井委員

審議会を行う中で、前回の審議会の議事録が次回までに提出されるのか。

事務局

事前にお送りし、個々の発言内容の修正等をして完成したものを会議録とします。情報公開の対象となるため、情報公開コーナーに置かせていただくことになります。

北村委員

傍聴についてはどうなっているか。

事務局

審議会についての傍聴規程があり、原則公開ということで本日も傍聴席を設けています。

資料も、委員の皆様配布したものと同一ものを提供し、傍聴していただく体制をとっています。

事務局

参考までに、前回までの審議会の議事録が市のホームページに載っていますので、書き方など見ていただければと思います。

筒井委員

傍聴者の人数の制限はあるのか。

事務局

会場における物理的な制限による人数制限があります。

筒井委員

傍聴者はいるか。

事務局

あまりいません。

筒井委員

傍聴者は発言できるのか。

事務局

できません。傍聴のみです。

吉村委員

9月以降のスケジュールはどうするのか。

野田会長

11月については、17日（月曜）でどうですか。

全委員

< 異議なし >

野田会長

11月17日（月曜）で決定とする。11月以降の日程については、後日調整を行う。
これで、第3回環境審議会の審議を終了したいと思います。

（16時00分 閉会）

